

量を表す副詞的成分に関する日本語と韓国語の対照研究

李清梅 上原聡 吉本啓

東北大学大学院国際文化研究科 {leeqm, uehara, kei}@insc.tohoku.ac.jp

1 はじめに

動作の結果、ある物の状態もしくはその形状が変化したという「結果」の意味は、日本語では「形容詞のク形」や「形容動詞／擬態語＋に」を用い、一方、韓国語では「動詞／形容詞／擬態語＋-key」といった日本語に似た形をとる。

(1) a. 私は服をきれいに洗った。

b. na-nun os-ul kkaykkusha-key
私-は 服-を きれい-接尾辞
ssis-ess-ta.

洗う-過去-終結語尾(以下「語尾」とする)

例文(1)は、「洗った」結果、服がきれいになったという状態変化を記述している。しかし、例文(2)は形式上「結果」を表す例文(1)と同じ形式を用いるが、日韓語の間には興味深い差が見られる。

(2) a. 服を{??厚く／??薄く}着た。

b. os-ul {twukkep-key / yalp-key} ip-ess-ta.
服-を 厚い／薄い 着る-過去-語尾

韓国語の(2b)を日本語に訳すと「厚着をした」になり、「厚い」、「薄い」のような量を表す形容詞が副詞的成分になる場合、日本語と韓国語で相違点が見られる。そこで本稿では、このような現象を巡る日韓語の対応関係の解明を試みる。

2 量を表す形容詞

本稿で量を表す形容詞とは以下のような定量可能な形容詞である(陸 1989 を参照)。量を表す形容

詞の特徴は、「赤い」のような形容詞とは異なり、「大きい／小さい」のように対になっているものであり、Aに示すような大きい方向の形容詞、あるいはBに示すような小さい方向の形容詞である。

A:大きい、長い、高い、広い、厚い、深い、太い、重い、遠い、速い、高い(値段)、多い

B:小さい、短い、低い、狭い、薄い、浅い、細い、軽い、近い、遅い、安い、少ない

3 先行研究

Washio(1997a, b)では例文(3)は「マリーがケーキを切ることによってケーキが小さくなった」と解釈するより、むしろ「マリーがケーキを何切れかの小さいものになるように切った」と副詞的に解釈したほうが妥当であるとしている。一切れのケーキの大きさは「切る」動作によって変わるからである。同様に例文(4)も、一切れの肉の厚さは「切る」動作によって異なることから、Washioは「彼が肉を何切れかの薄いものになるように切った」と解釈したほうが妥当であると指摘している。

(3) a. マリーはケーキを小さく切った。

b. Mari-nun kheik-ul cak-key
マリー-は ケーキ-を 小さい-接尾辞
ssel-ess-ta.
切る-過去-語尾

(4) a. 彼は肉を薄く切った。

b. ku-nun koki-lul yalp-key
彼-は 肉-を 薄い-接尾辞
ssel-ess-ta.
切る-過去-語尾

中川(1987)は日本語の(5a)には服を大きくする

という意図が込められていると述べている。韓国語の(5b)も日本語と同様の意味を表す。

(5) a. 服を{大きく／小さく}作る。(中川 1987: 159)

b. os-ul {khu-key/cak-key} mandul-ta.
服-を 大きい／小さい 作る-語尾

서(1990)では韓国語の-key には修飾機能があるとし、-key の修飾機能は例文(6)のように先行用語が「非動作性」である場合に果たされると述べている(서 1990: 356)。

(6) palam-i [palam-i siwenha-key] pwun-ta.
風-が 風-が 涼しい-接尾辞 吹く-語尾
‘風が涼しく吹く。’

例文(6)に対応する日本語は韓国語と同様の意味を表す。本稿で扱う量を表す形容詞は「非動作性」であるが、例文(2)から分かるように日本語と韓国語で相違点が見られる。日本語と韓国語は語順、格表示をはじめ統語的に多くの類似性を有するが、逐語訳から考えると、かえって誤解を招く場合がある。

4 では、量を表す形容詞の副詞的成分を巡って、動詞を3種類に分け、日韓語の相違を説明する。

4 日本語と韓国語の対応関係

上記の通り、量を表す形容詞は方向性を有する。それらに結びつく動詞にも方向性が見られるものがある。「掘る、切る」等を見ると、「穴を掘る」の場合、「掘る」は掘れば掘るほど穴を深くする動作で、「縄を切る」の場合、「切る」は縄を短くする動作で、二つとも「1方向」に働く動詞である。ここで、日韓語では以下のような相違点が見られる。

(7) a. 穴を{深く／浅く}掘った。

b. kwumeng-ul {kiph-key/yath-key}
穴-を 深く／浅く

pha-ss-ta.

掘る-過去-語尾

(8) a. 縄を{?長く／短く}切った。

b. kkun-ul {kil-key/ccalp-key} calla-ss-ta..
縄-を 長く／短く 切る-過去-語尾

「掘る」の場合は日韓語では相違点は見られないが、「切る」の場合、日本語では(8a)ではなく「縄を長めに切った」のように「長めに」を使わなければ自然な表現にならない。例文(7)は動作の結果「穴」が出現するので、「掘る」はものを作り出す動詞(以下「作成動詞」とする)であるが、それに対し例文(8)の「縄を切る」場合、「縄」はもともと存在するものであり、「切る」は「縄」に対する働きかけ動詞である。

さらに上の例文(5)の「作る」という動詞や例文(9)の「書く」という動詞はそれぞれ作ることによって、あるいは書くことによって大きくも小さくもできる「2方向」に働く動詞で「掘る」とは異なるが、その反面、いずれも作成動詞であるという点で共通している。

(9) a. 字を{大きく／小さく}書いた。

b. ku-ul {khu-key/cak-key}
字-を 大きい／小さい

sse-ss-ta.

書く-過去-語尾

このように、動詞が作成動詞の場合は、日本語の「形容詞のク形」構文とそれに対応する韓国語の「形容詞+key」構文は量を表す形容詞副詞成分を持つことができ、意図の意味を表す。

しかし同じく働きかけ動詞であっても例文(10)の場合、例文(8)と異なり、日韓語ともに「厚く」でも「薄く」でも言える。例文(8)の「切る」と例

文(10)の「剥く」は働きかけ動詞であるが、動作の方向性が異なる。即ち、「切る」は「1方向」に働く動詞で、「剥く」は「2方向」に働く動詞であるからである。

- (10) a. りんごの皮を {厚く／薄く} 剥いた。
 b. sakwakkepcil-ul {tukkep-key / yalp-key}
 りんご-を 厚い／薄い
 kkakk-ass-ta.
 剥く-過去-語尾

このように量を表す形容詞を副詞的成分に持つ構文において、日韓語では動詞が作成動詞かどうかが大きく関わっており、働きかけ動詞の場合、日本語では方向に逆らった(以下「- (マイナス)」方向とする)副詞を取ると不自然な文になる¹。「肉を切る」場合は日韓語ともに「厚く」でも「薄く」でも言えるが、それは肉の場合「切る」は「縄を切る」場合と異なり「2方向」に働く動詞であるからである。このように日韓語ではまず動詞が作成動詞であるかどうか、働きかけ動詞はその動作が有する方向性と関わっている。

次に、作成動詞でもない、方向性を有しない動詞(以下制約なし動詞とする)を見ると、日韓語では興味深い差が出てくる。例文(11)は買った服が長い、短いということを「形容詞のク形」構文や「形容詞+key」構文で表すことができず、日韓語とも非文になる。

- (11) a. 服を {*大きく／*小さく} 買った。
 b. os-ul {*khu-key / *cak-key} sa-ss-ta.
 服-を 大きい／小さい 買う-過去-語尾

しかし、「着る」は「買う」と同じく制約なし動

詞であるにも関わらず、日本語では非文になるのに対し、韓国語では正しい文になる。韓国語文(12b)は(着てみたら長かった、短かった、という動作主の期待はずれの意味を表すのではなく)動作主の意図性が込められている。

- (12) a. 服を {*長く²／*短く} 着る。
 b. os-ul {kil-key / ccalp-key} ip-ta.
 服-を 長い／短い 着る-語尾

韓国語で「服を長く買った」、「服を大きく買った」は非文になるのに対して、「服を長く着た」、「服を厚く着た」は正しい文になる。そのほかにも例文(13)、(14)の場合、日本語では非文であるが、韓国語では正しい文である。

- (13) a. 布団を {*厚く／*薄く} 覆う。
 b. ipwu-ul {twukkep-key / yalp-key} deph-ta.
 布団-を 厚い／薄い 覆う-語尾
 (14) a. 靴を {*大きく／*小さく} 履く。
 b. sin-ul {khu-key / cak-key} sin-ta.
 靴-を {大きい／小さい} 履く-語尾

このように制約なし動詞の場合、韓国語では「買う」を除いて「形容詞+key」構文で表せるのに対して、日本語の「形容詞+ク」構文は非文になる。韓国語において例文(11b)が非文になるのは韓国語の当該構文の意味が2つのイベント(服を買って、服を着る)の合成によっては構成されにくく、「長い服を買った」としか表現できないためであると考えられる。

以上、日韓語の表現の対応関係を、作成動詞かどうかという点と方向性の有無によって動詞を3種類に分け、分析してきた。表にまとめる(表1)。

¹ 「髪を切る」場合、韓国語でも「長く」を取ることができず、同じ「切る」でも名詞句によって容認度に差が出てくる。

² 「長く切る」は時間的に長いことを表し、服が長いことを表せない。

表 1 : 日韓語の対応関係

言語	作成動詞			働きかけ動詞				制約なし	
	2方向	1方向		2方向	1方向		服を着る		
	字を書く	穴を掘る		肉を切る	縄を切る				
		+方向	-方向		+方向	-方向			
韓国語	√	√	√	√	√	√	√ ⁱ	√	* ⁱⁱ
日本語	√	√	√	√	√	√	?	*/??	* ⁱⁱ

注：i 髪を長く切るとは表現できない

ii 韓国語では「高く買った」と「安く買った」のみ言えるが、日本語では「安く買った」のみ言える

表 1 から韓国語の「形容詞+key」構文は日本語の「形容詞のク形」より意図性が強いことが分かる。韓国語で「高く買った」は「高い服を買った」という意識して買った場合にも使われ、韓国語の「形容詞+key」構文は日本語より「意図」を含意しやすいことを説明している。

5 おわりに

本稿では、量を表す形容詞の副詞的成分を巡って、作成動詞かどうかという点と方向性の有無によって動詞を3種類に分け日本語と韓国語の対応関係を説明した。今後はさらに理論的な観点から考察していきたい。

謝辞

本研究は、東北大学 21 世紀 COE プログラム(人文科学)「言語・認知総合科学戦略研究教育拠点」の補助を受けて行われています。

参考文献

- 陆俭明 1989. 「说量度形容词」『语言教学与研究』第 3 期, 46-59.
- 中川正之 1987. 「中国語と日本語の形容詞」『日本語学』10 月号, 49-57.

서정수 1990. 「‘게’ 와 ‘도록’」『국어 문법의 연구 II (증보개정판)』한국문화사, 341-367.

Washio, Ryuichi. 1997a. 「결과표현의 유형(結果表現の類型)」 *Language Research* Vol.33, No.3. Language Research Institute (Seoul National University). 435-462.

Washio, Ryuichi. 1997b. Remarks on Korean Resultatives, in *Grant-in Aid for COE Research Report (1): Researching and Verifying an Advanced Theory of Human Language*, Kanda University of International Studies. 221-254.